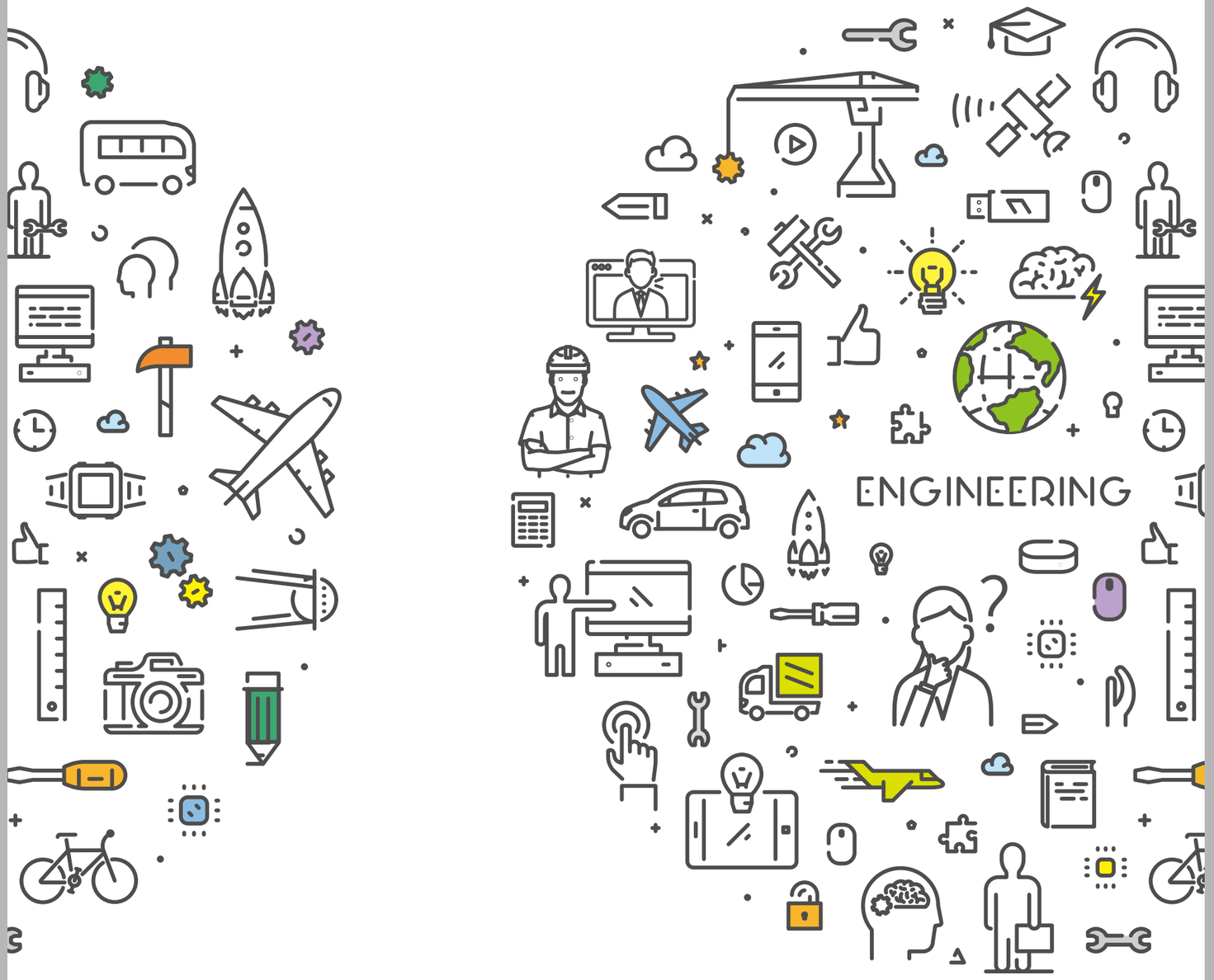


大学概要
2023 - 2024

技術を究め、技術を創る
国立大学法人
豊橋技術科学大学
TOYOHASHI
UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1
TEL:0532-44-6506　FAX:0532-44-6509

https://www.tut.ac.jp/

編集・発行:豊橋技術科学大学　広報戦略本部

ACCESS

豊橋駅まで

東海道新幹線	名古屋駅から豊橋駅まで約30分 東京駅から豊橋駅までひかりで約90分 こだまで135分
東海道本線	名古屋駅から豊橋駅まで新快速で約50分 浜松駅から豊橋駅まで約30分
名古屋鉄道	名鉄名古屋駅から豊橋駅まで特急で約50分 中部国際空港駅から豊橋駅まで特急で約90分 （神宮前駅で乗換）

豊橋駅より

バス	豊橋駅東口2番のりばから 豊鉄バス豊橋技科大線に乗車「技科大前」で下車 所要時間約30分（片道450円　2023年4月現在）
タクシー	豊橋駅前から南へ8.2km 約25分 （豊橋駅～技科大　約4,000円）

自家用車にて

東名高速道路	音羽蒲郡I.C.または豊川I.C.から約1時間 浜松西I.C.から約1時間

国立大学法人
豊橋技術科学大学
TOYOHASHI
UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

2026年に開学50周年を迎えます

技術を究め、技術を創る。

基本理念

豊橋技術科学大学は、技術を支える科学の探究によって新たな技術を開発する学問、技術科学の教育・研究を使命とします。この使命のもと、主に高等専門学校卒業生及び高等学校卒業生等を入学者として受入れ、大学院に重点を置き、実践的、創造的かつ指導的技術者・研究者を育成するとともに、次代を切り拓く技術科学の研究を行います。さらに、社会的多様性を尊重し、地域社会との連携を強化します。これらを通じて世界に開かれたトップクラスの工科系大学を目指します。

学長挨拶

学長 寺嶋　一彦
Terashima Kazuhiko

Profile

1982年京都大学大学院博士課程修了。
工学博士。
1994年 4月　豊橋技術科学大学　教授
2012年 4月　同　副学長(～2018年3月)
2018年 4月　同　理事・副学長(～2020年3月)
2020年 4月　同　学長

世界トップクラスの工科系大学を目指して

本学は、技術を科学的に解明し、高度な技術の開発や技術の体系化を創生する学問「技術科学」の教育・研究を使命として設立されました。モノづくりの得意な学生を受入れ、従来の専門分野に加え、センシング、IoT/AI、ロボットなど横断的かつ先進的なCPS(Cyber Physical Systems)教育やカーボンニュートラルのエネルギー教育などを益々強化し、また、安全・安心な社会の形成に向けて世界の人々が共通に抱える課題への対処を通じて「持続可能な開発目標(SDGs)」に積極的に取り組み、グローバルに活躍しイノベーションを起こせるリーダー人材を社会に送り出すことに努めております。

さて、本学の強みは開学以来、半導体を材料からチップまで、設計、試作、製造、評価ができる施設を学内に有し、それを元に半導体型センサ・デバイスの研究で世界トップクラスの実績をあげていることです。また教員1人当たりの民間企業との共同研究費受入額が、2020年度全国1位になるなど産学連携が活発で、ロボット、農工・医工連携など異分野融合研究にも強みを持っています。

学生の課外活動も積極的に支援しており、なかでもロボコン同好会はNHK学生ロボコン2023で全国1位の成績を修め、通算8回の優勝は全国最多の実績を誇っています。

また本学卒業生が産業界で大活躍しており、日経独自調査の企業人事担当者への調査で、「採用を増やしたい大学ランキング」全国1位※となりました。

教育面は、高専・高校での教育との接続を考えた他大学にない重複を避けるシームレスなカリキュラムを構築し、また研究面は、産学・国際・高専・大学連携を今まで以上に幅広く積極的に取り込んだ共同研究を推進し、実装力、応用力に卓越した世界で光る工科系大学を目指すとともに、我が国の科学技術の発展に一層貢献していく所存です。最後になりますが、皆様の変わらぬご支援・ご指導を宜しくお願い申し上げます。

※出典：日経HR『日経キャリアマガジン　価値ある大学2023-2024　就職力ランキング』

学　章

国立大学法人
豊橋技術科学大学

開学20周年を機に、本学学章の公募が行われ、応募作品の中から選ばれたものです。この学章は、本学のイニシャル「T.U.T.」をモチーフに、実践的技術の研究、開発をする学生の独創的な姿をウェーブでエネルギッシュに表現しています。

コミュニケーションマーク

国立大学法人
豊橋技術科学大学

形状は、「豊橋」「技術」の頭文字である2つの「T」を赤と黒で配色し、構成しています。赤は「基礎」や「人間力」を、黒は「専門」や「技術力」を意味しています。これらがしっかりと重なり合うことで太い幹となり、世界の産業を支えていく力強い人材が育っていくことを表現しています。

TOYOHASHI
UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

豊橋技術科学大学の使命と目指すべき大学像(ビジョン)

詳しくはこちら▶

大学の使命

実践的な技術の開発を主眼とした工科系大学院大学として、社会的ニーズに応える研究を牽引できる人材を育成し、研究成果の社会実装を進める事で人類社会の持続的発展に貢献します。

チャレンジし続ける大学

劇的な変革に直面する現代社会において、産学連携、社会と連携した教育など大学教育に新機軸を導入してきた大学として、これからも大胆な挑戦を続け、社会の変革に即応できる人材を養成する大学を目指します。

地域や高専と共に歩む大学

開学以来、密接な関係にある地域社会、主たる学生の輩出元である高等専門学校との連携を高い次元に引き上げ、高等専門学校が立地する地域をも含めた地域共創の取り組みを深化させて、地域と共に歩む大学を目指します。

1. 教育

重点戦略 1　学生の創造力を伸ばす教育プログラム等の導入
❶自ら考え、学び合う、動機駆動型教育(新らせん型教育)の新構築
❷個々の学生に応じた「オーダーメイド型教育」の実現
❸学生の自主的な挑戦を通じた、社会実装力強化型教育の充実

重点戦略 2　高専生、社会人が切れ目なく学べる教育プログラムの充実と発展
❶高専から社会人までを網羅するシームレスな教育体系の整備

重点戦略 3　CPS技術を駆使した革新的デジタル実装教育プログラムの導入
❶全学共通のCPS教育及びDX教育の確立
❷XR(クロスリアリティ)技術を用いた、教材及び教育法の開発と活用

重点戦略 4　社会との密接な連携による社会実装力を高める教育プログラムの強化
❶産学連携教育及び学外連携教育の体系化による人材育成プログラムの強化
❷地域課題を技術科学で解決する技科大リベラルアーツ教育の開発
❸新たな技術科学を学ぶ実践的リカレント教育の推進

2. 研究

重点戦略 5　重点研究領域を設定し、学内外による研究チームを組織した研究を推進
❶イノベーションを創出し世界を先導する半導体研究拠点の構築
❷リサーチセンターの拡充による重点研究分野の対応力の強化

重点戦略 6　高専及び地域産業界と連携した研究成果の社会実装と実用化の推進
❶地域の中核となるDX拠点を構築し、高度な知の集積と活用による地方創生への貢献
❷高専及び地域産業界と連携した研究チームを編成し、多様な研究プロジェクトへの対応力強化
❸キャンパスを実証試験フィールドとした実証研究の推進

重点戦略 7　学内外の研究者や学生による自発的研究促進の環境を整備し、新しい構想による研究開発の芽を育てる
❶ラーニングコモンズとイノベーションコモンズの有機的連携による若手研究プロジェクトの推進

重点戦略 8　大学院生を研究者と位置づけた研究活動支援策の拡充
❶大学院生を主体とした研究活動を支援する組織の整備と支援制度の拡充

3. 社会との共創

重点戦略 9　地域共創プラットフォームの構築による地域の活性化
❶新技術開発の中心となる開発拠点の拡充と、研究成果の展開と実装化の推進
❷地域の課題解決をリードする地域共創プログラムと社会人向け教育の推進

重点戦略 10　高専との連携による地域経済好循環への貢献
❶高専との教育研究ネットワークの強化による地域社会との共創の推進
❷高専と連携した地域課題の抽出と、その解決に向けた共同研究の推進

重点戦略 11　国際ネットワーク構築と国際サテライトオフィスを活用したグローバル活動の強化
❶戦略的な国際ネットワークの構築による教育研究、人的交流の持続的活性化
❷グローバル教育プログラムの再構築による教育到達水準の高度化
❸東南アジア及び欧州と本学をつなぐ海外拠点の構築
❹単位付与型短期留学を含む学生の海外留学プログラムの充実化

4. 多文化、多様性を尊重し、共生できる活力あるキャンパスの実現

重点戦略 12　多様な経験を有する学生の受入れとキャンパス活動支援の充実
❶学ぶ動機や能動的学びへの適性など学力試験以外の評価も取り入れた総合判定による新入試制度の導入
❷多様な背景を有する学生が共に学び合う学習環境の整備
❸学生が主体的に取り組む授業外活動の支援強化

重点戦略 13　学生への教育、キャリア支援、経済的支援の充実
❶博士後期課程学生への支援強化
❷協働プロジェクトへの学生参画を通じたキャリアパス支援
❸同窓会との連携強化

5. 大学のリソースを活用した組織と経営力の強化

重点戦略 14　大学のリソースの拡充と活用による組織と経営力の強化
❶多様な経験と能力を持つ人材の獲得と育成
❷外部資金等の多様化による安定的な財務基盤の確立

重点戦略 15　施設及び設備の戦略的な整備
❶施設の計画的整備と改修による重点戦略項目を遂行できる環境の構築
❷教育研究設備整備マスタープランの拡充による教育研究環境の整備

沿革 ／ DATA

沿革

1974年 4月 11日	1974年度予算で技術科学大学院（仮称）の豊橋市設置が決定
1976年 5月 25日	国立学校設置法の一部を改正する法律（1976年法律第26号）の施行により、豊橋技術科学大学の新設公布
10月 1日	豊橋技術科学大学開学
1977年 4月 18日	工学部にエネルギー工学課程、生産システム工学課程、電気・電子工学課程、情報工学課程、物質工学課程、建設工学課程の6課程設置
1978年 4月 24日	第1回入学式を挙行
1980年 4月 1日	大学院工学研究科修士課程にエネルギー工学専攻、生産システム工学専攻、電気・電子工学専攻、情報工学専攻、物質工学専攻、建設工学専攻設置
1986年 4月 1日	大学院工学研究科博士後期課程に材料システム工学専攻、システム情報工学専攻設置
1987年 4月 1日	大学院工学研究科博士後期課程に総合エネルギー工学専攻設置
1988年 4月 1日	工学部に知識情報工学課程設置
1991年 4月 1日	大学院工学研究科修士課程に知識情報工学専攻設置
1993年 4月 1日	工学部にエコロジー工学課程設置
1995年 4月 1日	大学院工学研究科博士後期課程を再編成し、機械・構造システム工学専攻、機能材料工学専攻、電子・情報工学専攻、環境・生命工学専攻設置
1996年 4月 1日	エネルギー工学課程、エネルギー工学専攻をそれぞれ機械システム工学課程、機械システム工学専攻に名称変更
1997年 4月 1日	大学院工学研究科修士課程にエコロジー工学専攻設置
2000年 12月 1日	大学院工学研究科修士課程英語特別コース受入れ開始
2004年 4月 1日	国立大学法人豊橋技術科学大学設立
2010年 4月 1日	工学部、大学院工学研究科博士前期課程を再編（機械工学課程／専攻、電気・電子情報工学課程／専攻、情報・知能工学課程／専攻、環境・生命工学課程／専攻、建築・都市システム学課程／専攻）
10月 1日	エレクトロニクス先端融合研究所設置
2012年 4月 1日	大学院工学研究科博士後期課程を再編（機械工学専攻、電気・電子情報工学専攻、情報・知能工学専攻、環境・生命工学専攻、建築・都市システム学専攻）
2013年 12月 4日	マレーシア教育拠点設置
2019年 4月 1日	環境・生命工学課程、環境・生命工学専攻をそれぞれ、応用化学・生命工学課程、応用化学・生命工学専攻に名称変更
2021年 4月 1日	マレーシア教育拠点をマレーシア海外拠点に名称変更
2021年 11月 16日	豊橋駅前大通emCAMPUSにサテライト・オフィスを移転
2023年 4月 1日	エレクトロニクス先端融合研究所を次世代半導体・センサ科学研究所に組織改編

詳しい沿革はこちら

DATA

開学	昭和51（1976）年10月1日
専攻	5課程（工学部）、5専攻（博士前期）、5専攻（博士後期）
学生数	計2,015人（学部：1,144人、大学院：871人）
教職員	379人

敷地面積：約355,606㎡
東京ドームの7.6倍

2023年5月1日現在

役職員一覧

TOYOHASHI UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

2023年5月1日現在

■役員

学長		寺嶋 一彦
理事・副学長	教学、国際、DX担当	角田 範義
理事・副学長	研究、将来構想、高専連携担当	若原 昭浩
理事・事務局長	総務、財務、施設担当	中西 幸博
監事		佐藤 元彦
監事		牧 葉子

■副学長

教育担当	足立 忠晴
研究力強化担当	田中 三郎
国際担当	中内 茂樹
ダイバーシティ担当	中野 裕美
入試担当	井上 隆信
学生担当	河村 庄造
基金・卒業生連携、50周年記念事業担当	滝川 浩史
IR担当	栗山 繁

■学長特別補佐

社会連携担当	加藤 茂
危機管理担当	松本 明彦
リベラルアーツ教育担当	中森 康之
将来ビジョン担当	市坪 誠
DX推進担当	後藤 仁志
広報担当	上原 秀幸
マレーシア海外拠点担当	Lim Pang Boey

■学長補佐

地域振興担当	小野 悠

■事務局

事務局長	中西 幸博
事務局次長（総務担当）	徳成 彰彦
事務局次長（学務担当）	柴田 武彦
総務課長	徳成 彰彦
経営企画課長	河合 孝弘
人事課長	與語 貴生
経理課長	戸田 克己
施設課長	鹿嶌 伸彦
研究推進課長	大宮 伸夫
社会連携課長	柴田 珠子
学術情報課長	正中 知子
教務課長	小柳 幸次
学生課長	本間 佳予子
入試課長	佐竹 秀夫

■系長・総合教育院長

機械工学系長	柴田 隆行
電気・電子情報工学系長	内田 裕久
情報・知能工学系長	北岡 教英
応用化学・生命工学系長	齊戸 美弘
建築・都市システム学系長	三浦 均也
総合教育院長	岡田 浩

■機構

技術科学イノベーション研究機構長	若原 昭浩
次世代半導体・センサ科学研究所長	澤田 和明
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長	柴田 隆行
イノベーション施設長	田中 三郎
未来ビークルシティリサーチセンター長	三浦 純
安全安心地域共創リサーチセンター長	齊藤 大樹
先端農業・バイオリサーチセンター長	高山 弘太郎
NCU-TUT先端医薬工学共同研究ラボラトリー長	柴富 一孝
ニッカ電測-TUT磁気センシング応用先端共同研究ラボラトリー長	田中 三郎
研究推進アドミニストレーションセンター長	田中 三郎
高専連携地方創生機構長	若原 昭浩

■法人センター

研究推進アドミニストレーションセンター長	田中 三郎
社会連携推進センター長	加藤 茂
ダイバーシティ推進センター長	中野 裕美
学生支援統括センター長	角田 範義

■共同利用教育研究施設

グローバルネットワーク推進センター長	中内 茂樹
教育研究基盤センター長	小林 正和
情報メディア基盤センター長	角田 範義
IT活用教育センター長	後藤 仁志
健康支援センター長	小島 俊男

■附属図書館

附属図書館長	角田 範義

■特別顧問

特別顧問	大貝 彰
特別顧問	神野 吾郎

豊橋技術科学大学の特色

1 高度技術者・先導的人材の育成

高等専門学校からの学生を主な受入対象としつつ、高等学校卒業生を１年次に受入れ、学部・大学院一貫教育により、優れた技術開発能力を備え、我が国の産業を牽引する高度な技術者、さらに広い視野と柔軟な思考力、豊かな学識を備え、グローバル時代を切り拓く研究開発能力を有する先導的な人材を育てます。

2 未来を見据えた教育研究組織

基幹産業を支える先端的技術分野と、持続的発展社会を支える先導的技術分野を２本の柱とし、工学部・大学院工学研究科が構成されています。また、高い専門性に加え、幅広い視野を持ち、社会の変化に柔軟に対応できる技術者を養成できるよう、教養教育を統括する総合教育院を設置しています。

3 特色ある教育

学部１・２年次及び高等専門学校において技術教育を学んだ学生に対し、より高度な基礎・専門の技術教育をらせん型のように積み上げていく「らせん型教育」を行っています。また、学部４年次には、企業等において、実社会における技術者としての問題への取り組み方を学ぶ「実務訓練」を行っています。

4 大学院に重点を置いた教育体系

産業界の工学系学生の採用は、大学院修了生に比重を移しています。本学では、大学院博士前期課程の定員を多く設定することで、相応しい能力を持つ学生に広く門戸を開き、学部・大学院一貫教育による高度な研究活動に注力した教育を推進しています。

5 研究の強み

本学は開学以来、半導体を材料からチップまで、設計、試作、製造、評価ができる施設を学内に有し、それを元に半導体型センサ・デバイスの研究で世界トップクラスの実績をあげております。また教員1人当たりの民間企業との共同研究費受入額が、2020年度全国1位になるなど産学連携が活発で、ロボット、農工・医工連携など異分野融合研究にも強みを持っています。

6 高等専門学校（高専）との連携

高専卒業生の進学先として開学された経緯から、全国高専との深い連携の下、技術系人材の養成に力を入れています。高専教員との教育・研究交流を推進するとともに、高専生に対する体験実習等の実践的協働教育を進めています。高専からの編入学生に対しては、高専教育からの接続性の高い教育を提供しています。

7 活発な国際交流

「世界に開かれた大学」として日本人学生の海外派遣、外国人留学生の受入れ、国際共同研究等を推進し、グローバル人材の育成に力を入れています。海外拠点の設立、バイリンガル講義の実施の他、ドイツ等の欧州大学とのダブルディグリー・プログラムや、海外実務訓練等の取り組みを実施しています。

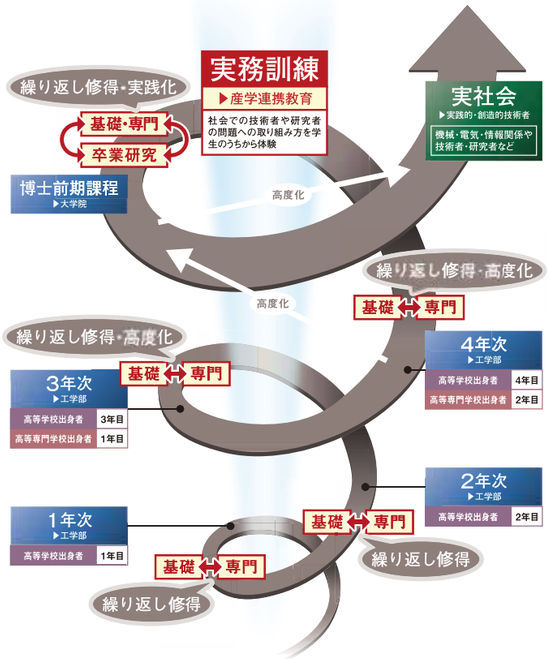
8 多様な産学官連携と地域社会との連携

企業との共同研究等を通じ、産学連携拠点を形成することを使命としており、教員1人当たりの民間企業との共同研究費受入額は、ここ数年間で常に全国5位以内で、特許出願件数等も多く、産業界との連携も活発です。また、地域が抱える課題解決のため、人材育成・社会人教育プログラムを開発・実施しています。

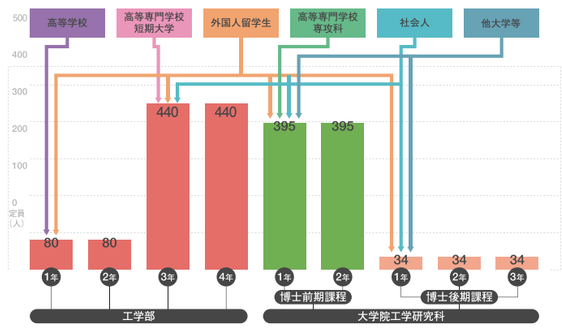
新たな教育研究組織図

基幹産業を支える先端的技術分野	持続的発展社会を支える先導的技術分野
①機械工学課程／専攻	④応用化学・生命工学課程／専攻
②電気・電子情報工学課程／専攻	⑤建築・都市システム学課程／専攻
③情報・知能工学課程／専攻	

らせん型教育



学生定員



本学が取り組む重点プロジェクト

本学は小規模な工学系単科大学でありながら、スーパーグローバル大学創成支援事業、研究大学強化事業、国立大学経営改革促進事業、博士課程教育リーディングプログラムなどの国の大型プロジェクトに採択され、これらを力強く推進してきました。

他のプロジェクトはこちら▶

スーパーグローバル大学創成支援事業 2014年度～2023年度（全国で37大学が採択）

「グローバル技術科学アーキテクト」養成キャンパスの創成

開学以来培ってきた教育力・研究力を土台としつつ、抜本的なグローバル化施策を全学的にを実施し、国際通用性の高い「多文化共生・グローバルキャンパス」を実現し、「グローバル技術科学アーキテクト」（グローバル社会で必要とされる、実践的・創造的かつ指導的な技術者）を養成する大学への変革を進めています。

変革を推し進めるための3つの柱

- ■グローバル技術科学アーキテクト養成コース（2017年度 新設）
- ■グローバル学生宿舎「TUTグローバルハウス」（2017年度 新設）
- ■重層的なグローバル人材循環（2014年度～推進中）

研究成果発展事業 2018年度～2023年度

「物理・化学情報をミクロンレベルで可視化するマルチモーダルセンシング技術の創出」

豊橋技術科学大学が世界で初めて開発した「イオンイメージセンサ」の技術をベースとして、様々な物理現象や化学現象をリアルタイムで可視化する革新的な「マルチモーダルセンサ」の実現を目指します。そのためには、①ミクロンレベルの分解能を可能とするマイクロチップ設計製造技術、②複数の物理・化学現象を同時に観測するマルチモーダルセンシング技術、③様々な事象の変化をリアルタイムに検出する技術が必要です。これらの要素技術を民間企業とのコンソーシアムにより創出し、IoT、AI時代を支える"データ"の価値を飛躍的に高めるセンサの実現と、医療・バイオ・化学分野等の高度情報化に向けた基幹産業の創出につなげます。

国立大学経営改革促進事業 2022年度～2025年度

メタバースの活用と技科大リソースマネジメントによる研究教育システムの価値向上と財政基盤の拡大

本学と長岡技術科学大学は文部科学省の「国立大学経営改革促進事業」に申請し、採択されました。両技科大で取組む本事業の名称は「メタバースの活用と技科大リソースマネジメントによる研究教育システムの価値向上と財政基盤の拡大」であり、構想実現に向けて以下の取組みを実施します。

- ■世界最大のテック系コミュニティの構築
- ■両技科大が共同して設立するアライアンス法人によるリソースの最大化
- ■未来の価値創造に資する若手人財育成

TOYOHASHI UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

研究組織概要

詳しくはこちら▶

機械工学

https://me.tut.ac.jp/

課題解決型の技術者・研究者の育成

機械・システムデザイン分野
材料・生産加工分野
システム制御・ロボット分野
環境・エネルギー分野

電気・電子情報工学

https://ee.tut.ac.jp/

人と地球とeECo未来

材料エレクトロニクス分野
機能電気システム分野
集積電子システム分野
情報通信システム分野

情報・知能工学

https://cs.tut.ac.jp/

「情報」と「知能」で世界を拓く

計算機数理科学分野
データ情報学分野
ヒューマン・ブレイン情報学分野
メディア・ロボット情報学分野

応用化学・生命工学

https://chem.tut.ac.jp/

人類と地球の未来を化学・生命科学で切り拓く

分子制御化学分野
分子機能化学分野
分子生物化学分野

建築・都市システム学

https://ace.tut.ac.jp/

安心して暮らせる豊かな社会の礎を築く、確かな技術者を育てます

建築・都市デザイン学分野
都市・地域マネジメント学分野

総合教育院

https://las.tut.ac.jp/

技術科学の土壌 ―リベラルアーツ

人文科学分野
社会科学分野
自然科学・基礎工学分野
コミュニケーション分野

機構・センター・共同利用教育研究施設

詳しくはこちら▶

[機構]

技術科学イノベーション研究機構

http://riti.tut.ac.jp/

本学の基本理念を高いレベルで実現するため、

① 急速な進化を遂げつつあり、また本学の強みであるセンシング・AI・ロボティクス研究と融合した価値創造型の“創発型システム研究”の推進
② 地域に貢献できる課題解決型“社会システム研究”の推進
③ 国内外のリーディング企業やトップ研究機関との強力な協働作業による、“先端融合研究”の推進を掲げ、次世代半導体・センサ科学研究所と3つのリサーチセンターの研究活動との間に横串を通し、オープンイノベーション実現に向け研究を推進します。

研究所

次世代半導体・センサ科学研究所（IRES²）

https://www.eiiris.tut.ac.jp/

従前のエレクトロニクス先端融合研究所を機能強化し、2023年4月に設立した新たな研究所。次世代半導体技術及びセンシング技術を基盤とした「エレクトロニクス革新技術」を、ロボティクス、情報通信、ライフサイエンス、農業工学、環境、防災及び次世代モビリティ等の先端的応用分野との融合研究を通じて、社会実装にまで展開するとともに、国内外の課題解決の貢献に取り組んでいます。

[IRES²附属施設]
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（LSI工場）
電子線描画装置、i線ステッパなど約100台からなる半導体デバイスの設計・製造設備を備えており、設計・シミュレーションから、プロセス・評価までを一貫して行えます。

[社会実装部門]

人間・ロボット共生分野

ロボット関連分野の最先端の研究を進めるとともに、地域の多様な分野の企業との連携を図り、ロボット技術の社会実装に取り組んでいます。

リサーチセンター

未来ビークルシティリサーチセンター

https://rcfvc.tut.ac.jp/

「低炭素社会」と「安全・安心社会」の実現を重点課題とし、「持続的に発展可能な社会」にふさわしいビークルシティの構築を目指した調査研究活動に取り組んでいます。

先端農業・バイオリサーチセンター

https://www.recab.tut.ac.jp/

複合技術分野における要素技術と人的資源を活用し、継続可能な食料生産供給に貢献する次世代型先端農業技術の研究開発及び関連する食農・バイオ・センサー・計測・制御・情報・環境などの分野の高度技術開発に取り組んでいます。

安全安心地域共創リサーチセンター

https://carm.tut.ac.jp/

自然災害だけでなく、環境面や生活面を含めた地域リスクの低減化に寄与する研究を推進しています。

イノベーション施設

イノベーション施設

https://vbl.tut.ac.jp/icvb/

本学の研究成果や人的資源を活用したベンチャー企業を計画する人による起業化までの実用化研究、または起業後間もない株式公開前のベンチャー企業の実用化研究の支援に取り組んでいます。

研究推進アドミニストレーションセンター（RAC）

https://rac.tut.ac.jp/

世界水準の優れた研究を行う「研究大学強化促進事業」の対象大学として、約10年前にこのセンターを設置しました。
RACは、研究戦略室、産学官連携推進室、産学官連携リスクマネジメント室、技術科学支援室、OPERA支援室の5室体制となっており、論文分析、共同研究支援、知財管理・活用、利益相反、安全保証輸出管理、共同利用機器管理、OPERA事業（国の大型事業）の支援など、多岐に渡る業務を、URA（研究支援人材）が中心となって実施しています。

高専連携地方創生機構

https://www.kousen.tut.ac.jp/

地域に展開する高等専門学校（以下「高専」）と地域企業との連携・協働を充実・強化し、プロフェッショナル人材の育成と社会実装を推進するとともに、高専との協働指導等の実施による入学生の技術科学学修能力の強化、高専の教員養成等の事業を推進しています。

[法人センター]

社会連携推進センター

https://www.sharen.tut.ac.jp/

本学が有する知や研究成果を広く活用し豊かで持続可能な「地域の未来創生」に貢献するため、地域自治体等との連携、社会人人材育成事業による地域社会の活性化、青少年の理工系人材育成等の社会貢献事業を推進しています。

ダイバーシティ推進センター

https://equal.tut.ac.jp/

お互いを尊重し、多様な人材の個性と能力をいきいきと発揮できるキャンパスを実現するため、「EQUAL宣言」を掲げ、ダイバーシティ＆インクルージョンを推進しています。

学生支援統括センター

https://ssc.tut.ac.jp/

学生生活の支援に関すること、学生相談に関すること、キャリア相談に関することなど学生支援全般の充実に取り組んでいます。

[共同利用教育研究施設]

グローバルネットワーク推進センター

https://ignite.tut.ac.jp/portal/

国内外の高等教育等機関や学内部局との連携及び協力を通じて国際的な教育研究交流活動を支援し、技術科学の国際拠点化を機動的・戦略的に推進しています。

教育研究基盤センター

https://crfc.tut.ac.jp/

高度大型分析計測機器類及び工作機械類等の各種共同利用機器を集中的に整備・管理・保守し、提供することにより、技術科学に関わる教育・研究の一層の推進・発展を支援しています。

情報メディア基盤センター（IMC）

https://imc.tut.ac.jp/

IMCでは、教育と研究に加え、他機関連携や地域共創といった様々な大学活動の場で利用されるデジタルインフラ（ネットワークシステム、計算機環境、教育研究用アプリケーション）を管理運用しています。学生や教職員の皆さんに安定したデジタルサービスを提供する共同利用施設です。

IT活用教育センター（CITE）

https://cite.tut.ac.jp/

2020年4月に発足した新しいセンターです。CITEでは、数理データサイエンス教育を推進するとともに、情報技術（Information Technology）を活用した教育を実践・普及させるため、授業のデジタルコンテンツ化の支援、ITを用いた学生の学修の習慣化及びIT活用教育の質向上に取り組んでいます。

健康支援センター

http://www.health.tut.ac.jp/

保健管理及び健康支援並びにこれらに関する教育及び研究を行うとともに、学生、職員の心身の健康の保持増進に取り組んでいます。

図書館

附属図書館

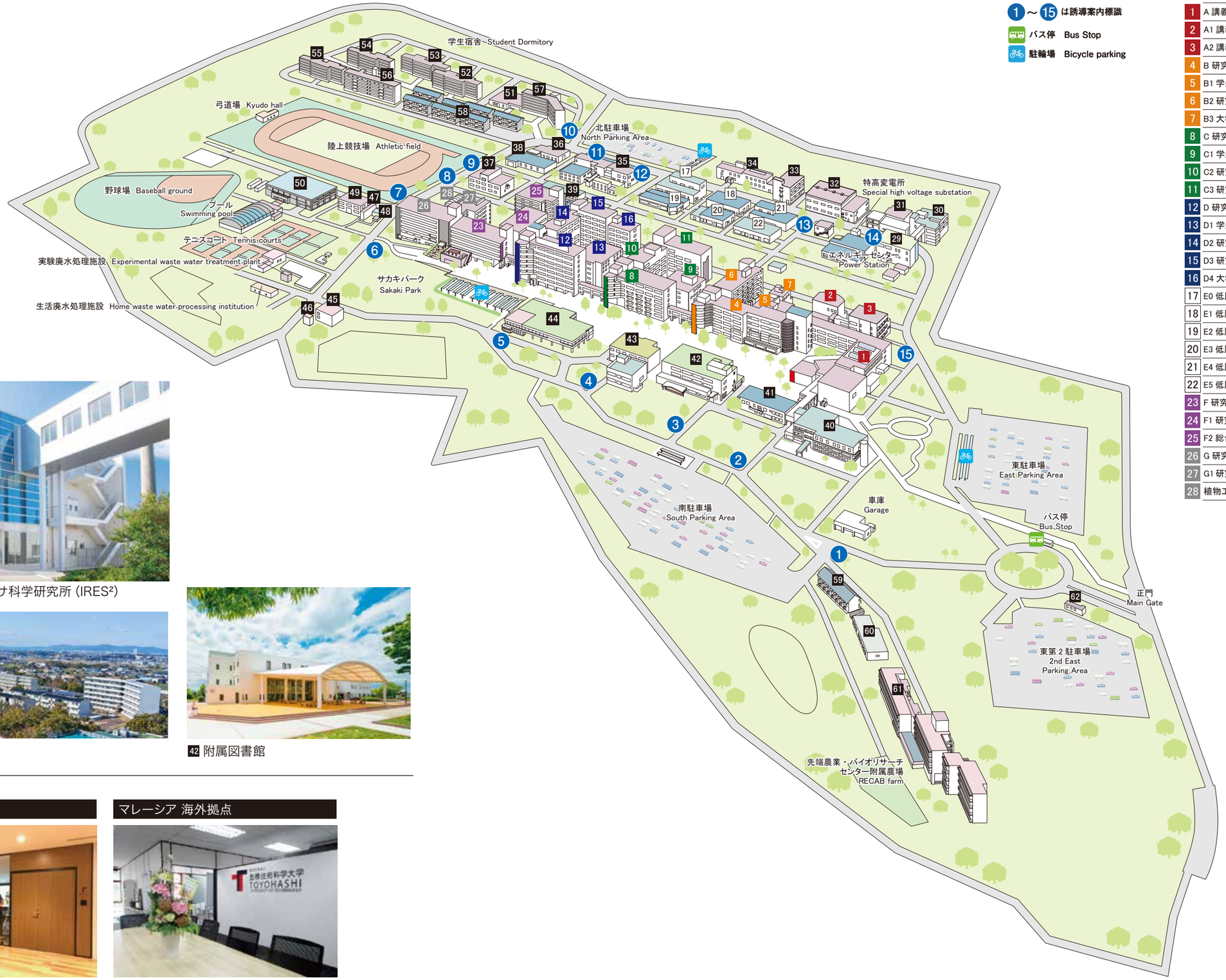
http://www.lib.tut.ac.jp/

1980年4月の開館以来、全学における学術情報センターとして、学生・教職員の教育・研究・学修活動を支援しています。平成29年3月のリニューアルにより、1階は個人・グループの学修や留学生・企業・地域の交流等に利用できるマルチプラザとなっており、2～3階に各種図書を配架する図書館となっています。

豊橋技術科学大学キャンパスマップ

TOYOHASHI
UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

約355,606㎡の広大な敷地に、快適で、充実した学修環境を整えています。



1～15 は誘導案内標識
バス停 Bus Stop
駐輪場 Bicycle parking

1	A 講義棟
2	A1 講義棟
3	A2 講義棟
4	B 研究棟
5	B1 学生実験棟
6	B2 研究実験棟
7	B3 大学院研究実験棟
8	C 研究棟
9	C1 学生実験棟
10	C2 研究実験棟
11	C3 研究実験棟
12	D 研究棟
13	D1 学生実験棟
14	D2 研究実験棟
15	D3 研究実験棟
16	D4 大学院研究実験棟
17	E0 低層実験棟
18	E1 低層実験棟
19	E2 低層実験棟
20	E3 低層実験棟
21	E4 低層実験棟
22	E5 低層実験棟
23	F 研究棟
24	F1 研究実験棟
25	F2 総合研究実験棟
26	G 研究棟
27	G1 研究実験棟
28	植物工場
29	次世代半導体・センサ科学研究所（IRES²）
30	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
31	固体機能デバイス研究施設
32	環境防災実験棟
33	インキュベーション棟
34	自然エネルギー実験棟
35	教育研究基盤センター
36	放射線実験棟
37	I-1研究棟
38	I-2研究棟
39	実験実習工場
40	事務局
41	アウトリーチ活動棟
42	附属図書館
43	情報メディア基盤センター・IT活用教育センター
44	福利施設（食堂・喫茶室・売店）
45	課外活動共用施設
46	課外活動集会棟
47	クラブハウス
48	トレーニングジム
49	健康支援センター
50	体育館
51	共用棟
52	学生宿舎 A 棟
53	学生宿舎 B 棟
54	学生宿舎 C 棟
55	学生宿舎 D 棟
56	学生宿舎 E 棟
57	学生宿舎 F 棟
58	TUTグローバルハウス(G棟)
59	研究者（短期滞在）宿泊施設「ヴィレッジ天伯」
60	非常勤講師等宿泊施設「ひばり荘」
61	国際交流会館
62	守衛所

29 次世代半導体・センサ科学研究所（IRES²）

52～58 学生宿舎 A～G棟

42 附属図書館

サテライト・オフィス

マレーシア 海外拠点